

まちづくり
連続講座

私たちはどのように21世紀のまちをつかっていくべきか

国際的にみても、人口減少化、少子高齢化が着実に進む今の日本の状況ほど、真摯な地域政策、都市政策が求められているところはありません。我々が生きていく上で、「国土・地域・都市」のあり方を考えることは、経済や制度、コミュニティ等、全ての基礎を考えることにもなるからです。

戦後の日本社会がどのような思想と制度に基づいて国土・地域・都市を考え、つくってきたか、またこれからどのようなビジョンのもと、思考し、生み出していくべきか、有識者を交え、実際にその土地で生きる人々の立場から、考え、4回にわたって議論していきたいと思います。

▶ **第1回 2015年4月29日(水・祝)13:00～16:00**

人口減少時代の到来。町がなくなる。安倍政権の「地方創生」の行方は

大野秀敏(東京大学教授)、五十嵐敬喜(法政大学名誉教授)、野口和雄(都市プランナー)

▶ **第2回 2015年5月23日(土)13:00～16:00 法政大学市ヶ谷キャンパス 55号館 531教室**

戦後都市と国土はどのように創られてきたか。田中角栄の功と罪

大西隆(豊橋技術科学大学学長、日本学術会議会長)、東郷和彦(京都産業大学教授、元駐オランダ大使)、
大澤昭彦(高崎経済大学准教授)、五十嵐敬喜(法政大学名誉教授)

現在の地方や都市の状況とその未来を語る上で重要な視点の一つは、戦後日本の国土・地域・都市政策を振り返り、そこで必要とされ、産み出されたものの功罪を今一度明確にすることです。中でも戦後の国土政策の策定過程における手法の創出とそのオリジナリティにおいて、田中角栄という政治家は、突出したキーパーソンであり、彼は国民が一度はその「夢」を託した政治家でもありました。第2回目では国際比較も交えながら、戦後国土政策思想の変遷をたどり、その評価と現状の突破に向けて何が必要かを論じ合います。

▶ **第3回 2015年6月27日(土)13:00～16:00 法政大学市ヶ谷キャンパス 55号館 531教室**

魅力的な都市とその制度的保障。都市法改革の提案

岡部明子(東京大学教授)、神田順(日本大学教授)、松本昭((株)市民未来まちづくりテラス代表取締役)、
宮崎一徳(参議院事務局管理部副部長)、五十嵐敬喜(法政大学名誉教授)

地域や都市の矛盾が多く指摘される中で、その解決策として多様な取り組みと提案がなされてきました。しかし忘れがちな視点として、それらの矛盾における根本的な原因が法律、予算、執行過程も含めた「制度」にあるということはいえないでしょうか。課題設定から解決手段に至るまで、その選択を果たして現状の制度・システムに委ねたままで良いのか、第3回目では、今、その矛盾が一番形となって表れている被災地での復興の状況、また議員立法の状況をも踏まえて、地域や都市の問題における制度的保障の必要性和その方向性について論じ合います。

▶ **第4回 2015年7月25日(土)14:00～18:00 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎 S307教室**

21世紀都市ビジョンの形成。「現代総有の提案」と田園都市

金子 勝(慶應義塾大学教授・経済政策)、五十嵐敬喜(法政大学名誉教授)

新しい地域・都市像の創出、戦後の国土政策に対する評価、制度的保障のあり方に関する議論を踏まえた際、その具体化にあたっての実践や哲学はどのようなものなのでしょうか。東日本大震災以後、「新しい共同体」像についての模索が各地で行われています。大都市圏以外でも自立して豊かに生活できるためにはどんなシステムが有効か、最終回となる第4回目では、財産権等に係る「総有」と「田園都市」をキーワードとしながら、その可能性について論じ合い、締めくりしたいと思います。



お申し込み
←

【資料代】各回 1,000 円 (当日お支払いください。各回それぞれの参加も可) 【お申込】 <http://soyu-igarashi.sakura.ne.jp/photo.html>

【問い合わせ】 renzokukoza@soyu-igarashi.sakura.ne.jp ※やむをえず内容が変更になる場合があります。

主催：法政大学都市法・現代総有研究会 共催：一般社団法人チームまちづくり

協賛：日本景観学会・景観と住環境を考えるネットワーク・公共事業改革市民会議・都市計画道路連絡会